

高学年の読み聞かせ

11月13日（金） 昼休みに運動場にいると、低学年の子どもから話しかけられました。「校長先生、今日は5・6年生が誰もいないね。どうしたのかなあ。」
「ほんただね。どうしたのかなあ。」

すると、2階の5・6年生教室から、子ども達の声が聞こえてきました。一斉に話をしているようで何を言っているのか聞き取れませんでした。しばらくして「読み聞かせ」の練習だと気づきました。今日のえいしんタイムは、「5・6年生による読み聞かせ」だったのです。本番に向けて、最後の練習をしていたのでしょう。子ども達の「やる気」を感じるとともに、12名の子ども達が、どのような読み聞かせをしてくれるのか、とても楽しみになりました。

昼休みが終わり、いよいよ読み聞かせの始まりです。1～4年生の教室に、照れくさそうに入っていく5・6年生でしたが、いざ読み聞かせが始まると、落ち着いた態度で、一生懸命に絵本を読んでいます。それを聞いている子ども達の顔も真剣です。1冊の絵本を通して、子ども達の心が一つになっているようでした。

コロナ禍で、様々な行事や活動が制限されたり、中止になったりするなど、子どもたちの活躍の場が少なくなっていると言われていています。しかし、コロナ禍であってもできることはたくさんあります。これからも、子ども達の活躍の機会をつくり、活動を通して、より多くのことを学ばせ、自信をもって次の活動に取り組めるよう頑張っていきます。



みんな、読み聞かせに夢中

そばの収穫体験

11月13日（金） 読み聞かせを立派にやり遂げた5・6年生は、休む間もなく「そば刈り」作業に向かいます。

普段、鎌を使うことがない子どもたちですが、青年部の方の指導をいただきながら、黙々と刈り取っていきます。とても広い畑で、全部を刈り取ることはできませんでしたが、準備したコンテナが、刈り取ったそばでいっぱいになり作業終了。

例年、ここまでの活動でしたが、今年は、続けて脱穀作業も行いました。刈り取ったそばを持って、ひっくり返したコンテナめがけてたたきつくと、面白いように、そばの実が落ちていきます。最後は、唐箕を使って、ごみなどを取り除き、全部の作業を無事に終わらせることができました。お忙しい中、体験活動をサポートしてくださったJA青年部の皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。

今回の体験を通して、子供達が何を考え、何を学んだのか、気になるところですが、一つ言えることは、盈進でしかできない貴重な体験ができたということです。体験を通して学んだことは、貴重な財産です。今年の「えいしんまつり」が、とても待ち遠しいです。



黙々とそば刈り



カー杯たたいて脱穀



ごみなどを飛ばして、作業完了